

A2) 特別企画セッション
PractiTest共同企画



テストの現状調査レポートから テストの将来を考えてみよう

～ *Joel Montvelisky氏に聞く世界のテスト事情* ～

2019年3月27日

セッションの構成

[第一部]

テストの現状調査レポートのご紹介

辰巳 敬三

[第二部]

Global Trends & The Future of Testing

Joel Montvelisky

[第三部]

**パネルディスカッション
～Joelに聞いてみよう～**

登壇

[モデレータ]

江川 さおり (LOB)

[パネリスト]

Joel Montvelisky (PractiTest)

辰巳 敬三 (State of Testing 日本語翻訳チーム)

根本 紀之 (State of Testing 日本語翻訳チーム)

矢野 恵生 (State of Testing 日本語翻訳チーム)

鈴木 里惇 (State of Testing 日本語翻訳チーム)

テストの現状調査レポートのご紹介

～ *Introduction to the State of Testing report* ～

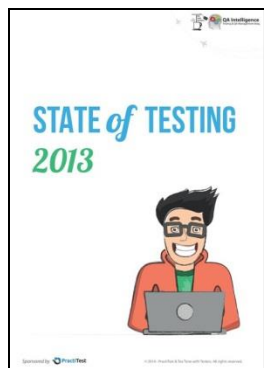
State of Testing 日本語翻訳チーム

辰巳 敬三

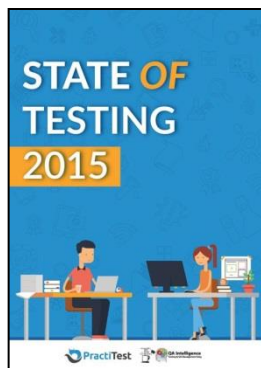
2019年3月27日

State of Testing Survey & Report

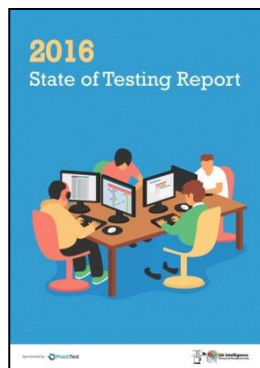
- ❑ ソフトウェアテストに関する世界規模の調査レポート
- ❑ テスト専門職とコミュニティの現状を正確に伝えることが目的
- ❑ **2013年から毎年調査を実施し、動向の変化を分析**



2013年12月
630人



2015年3月
865人



2016年2月
1,010人



2017年2月
1,600人
75ヶ国

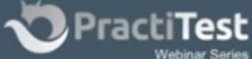


2018年2月
1,433人
83ヶ国

State of Testing Project

- イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏と
インドのTea-Time with Tester誌創刊者のLalitkumar
Bhamare氏(現在ドイツのXING社)が始めたプロジェクト

About Joel





Joel Montvelisky
Follow: @joel:monte

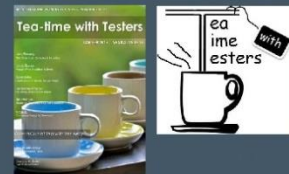
Professions :
(last 20 years)

- Tester
- QA Manager
- Blogger
- Speaker
- Solution Architect

PractiTest:

- Chief Solution Architect
- QA Manager

About Lalit





Lalitkumar Bhamare
Follow: @Lalitbhamare

Sr. Test Engineer for XING AG
in Germany

Co-Founder and Chief Editor
of
TeaTime with Testers

Founder of
TV FOR TESTERS

BBST Foundation class
teacher with the AST

Assisting James Bach on his
RSTA Classes

ET workshop trainer

State of Testing 日本語翻訳チーム

State of Testing 日本語翻訳チーム

著者まえがき

私たちはテスターです。私たちは経験し、学習し、理解し、そして測り、人々と知識を共有することによって、現実に変化を起こし改善できると考えています。

このテストの現状調査レポートを作成した背景にはこのような理由があります。

私たちは、世の中で何が起きているかをテストやQAのコミュニティがより理解できるように、この報告により得られるテストがプロとしての仕事の一部や各企業の状況を改善できるようにしたいのです。

調査結果を分析し、考えた後、私たちは自分たちをとりまくテストの世界をより詳細に深く知ることができると感じています。

理解することそれ自体も良いことなのですが、それが行動や変化を起こすインスピレーションにつながるれば、さらに素晴らしいことです。

テストの世界を幅広く知るとは、テスターたちがこれまでとは違ったアプローチで仕事をする助けになるでしょう。他の組織やチームでは対応できないものもより理解することです。プロとしてより多くのやり方をより良いものに持っていくのに欠かせない。新しいアイデアや確信を得ることができるともなるでしょう。

しかし、「誰」というものは世界の人々によって解釈が異なる部分があるように、このテストの現状調査には異なる解釈をするところがある部分があります。したがって、人によって結果の解釈について意見が分かれることがあるのは自然なことです。

より深い理解と理解が必要で、分析をさらに進めていくことが必要です。

また、正しい傾向分析が必要で、見方を変えており、今後数年にわたる読者の期待が求められます。

これが、私たちがこの調査を一回限りで終わらせるのではなく継続していくという理由です。

2014年の終わりにまでには再び調査を行う予定です（笑）

最後に、この調査の実施と報告に協力し、大きな成功へと導いてくれた方々へ感謝いたします。

この調査に関する記事を提供してくれた多くのプロが（全ての協力者をこのレポートの最終ページに記述する）をはじめ、調査への参加も呼びかけるサイトや、それをリツイートしてくれたツイッターユーザーのおかげで、そして、もちろん、アンケートに答える時間をとってくれた皆さんのおかげで、みなさんの協力と参加が、このレポートがこれほど早く完成できたことでもありました。ありがとうございます！

このテストの現状調査レポートが、みなさんにとって楽しめるものであり、彼らの役に立つものであることを願っています。

感謝の意をこめて、
Lalit & Joel

[テストの現状調査2013 日本語翻訳チームから]

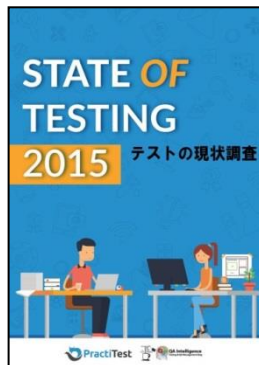
このレポートは、イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏とインドのTea-Time with Tester誌発刊者のLalitkumar Bhamare氏が、2013年10月から12月にかけてインターネット上で行ったアンケート調査結果の報告です（アンケート回答者数は650人強）。

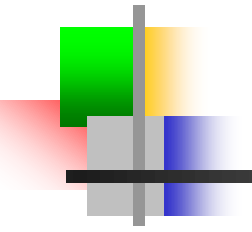
日本では海外のテスター達の状況を知る機会が少ないので、是非国内で紹介したいと思い翻訳チームを結成しました。翻訳版の作成にあたっては、JoelとLalitから翻訳許可を得るとともに、電子データも提供していただけたのでオリジナルと同様の体裁にできました。

我々は「著者まえがき」を読んで、テストという仕事やテストコミュニティに対する彼らの熱い思いに共感しました。この翻訳版レポートが読者のみなさんの現状を振り返る参考材料になれば幸いです。

2014年4月 日本語翻訳チーム(参加順) 辰巳 敬三、藤崎 祐美子、飯島 茂恵子、根本 紀之、矢野 恵生

2018年9月 日本語翻訳チーム：根本 紀之、辰巳 敬三、やの よしを、鈴木 里惇、飯島 茂恵子





テストの現状調査レポートの概要

□ レポートの目次

■ 回答者のプロフィール

- 地域分布、回答者の職種
- テスト分野での就労年数
- 仕事の中のテストの割合
- テスターとなった理由
- テスターの給与

■ 組織におけるテストの部門

- テストチームの組織上の位置づけ
- テストチームの規模
- テスターの他の作業
- テスト文書
- テストのアプローチと方法論
- 静的テストの活動
- テスターがこなす非伝統的な作業

■ トレーニング、スキル、成長

- スキルを磨くための知識の情報源
- 良いテスターになるためのスキル
- 参加しているテストのカンファレンス

■ テストプロセス

- テストの管理に使われるツール
- テストされている技術
- 開発モデル
- 自動化の状況

■ テストの現状と将来

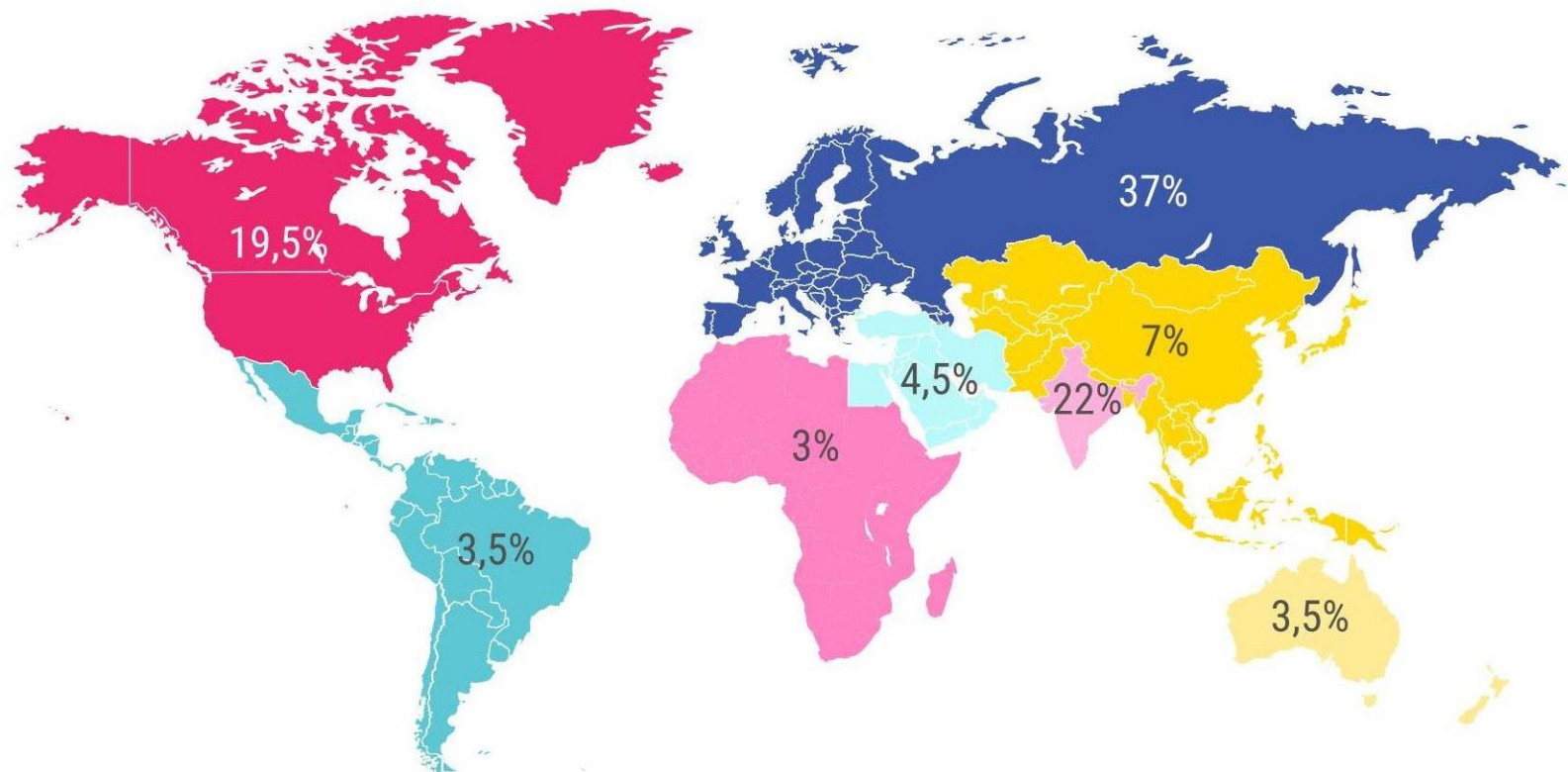
- テストチームが抱える課題
- テスト方法の変化
- テストで将来重要になるもの

■ キャリアと自己啓発

- テスターの採用で重視していること
- 理想的な未来のテストの世界

回答者の地域分布

□ 回答者: **1,433人(83ヶ国)** [2018年]



37% ヨーロッパ(とロシア)

19.5% USA / カナダ

4.5% 中東

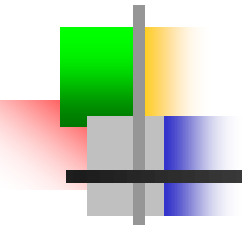
3.5% ラテンアメリカ

22% インド

7% アジア(インド以外)

3.5% オーストラリア /
ニュージーランド

3% アフリカ



回答者の職種(肩書き)分布

□ テスト専門家の様々な名称

32%	テストエンジニア / QAエンジニア	2%	テスト開発者 / SDET
24%	テストリード / マネージャー / ディレクター	1.5%	テスト設計者
12%	テスター / テストアナリスト	1.5%	プロジェクトマネージャー
8.5%	自動化専門テスター	1%	パフォーマンステスター
3.5%	チームリーダー	1%	テストコーチ
3.5%	コンサルタント	0.5%	DevOpsエンジニア
3%	ソフトウェアエンジニア	<0.5%	一体化したチームのエンジニア(※)
		6%	その他

テスターの給与

□ 地域別、経験年数別の給与水準

- 物価水準の差があり単純な比較はできないが、米豪欧と中東が高い。
テスターの地位の確立度合いの差(?)

	> 1年	1 - 2	2 - 5	5 - 10	10 +
アフリカ	5	16	16	26	46
アジア	5	22	34	40	53
中国	NA	5	13	41	57
インド	10	19	19	34	51
ラテンアメリカ	9	NA	18	32	48
東ヨーロッパ/ ロシア	10	13	19	28	34
西ヨーロッパ	37	34	50	62	80
中東	9	28	55	58	103
オーストラリア/ ニュージーランド	40	40	68	79	110
USA / カナダ	40	48	68	87	107

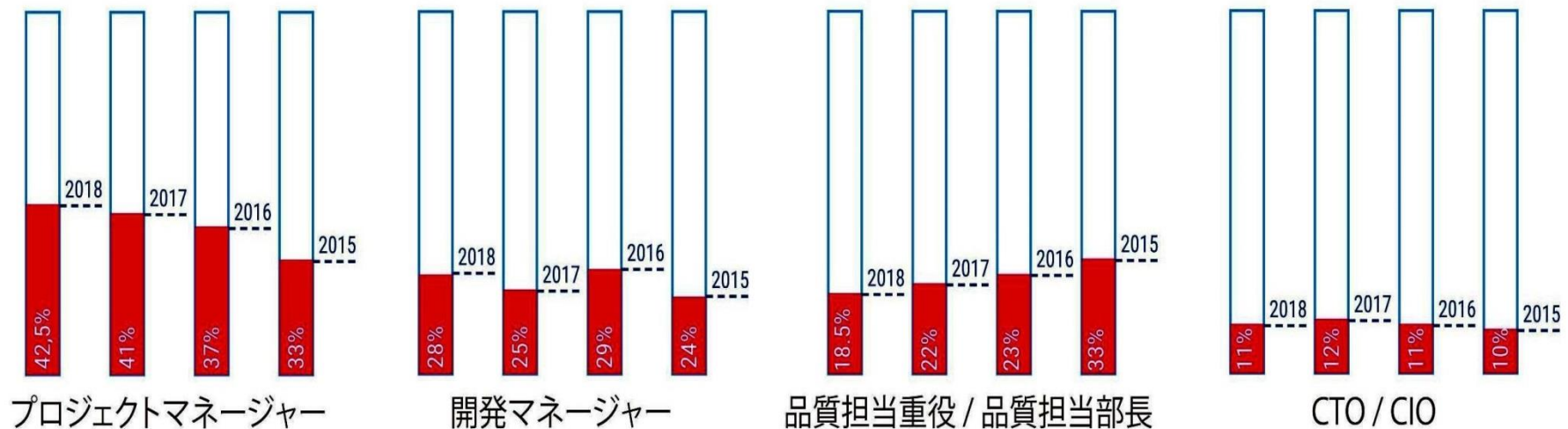
※ 給与の単位は1000米ドル、もしあればボーナスや臨時収入も含む。

※※ NA - 意味ある情報を提供するための十分なデータが得られず。

テストチームの組織上の位置づけ

□ テストチームのレポートは誰に報告されているか

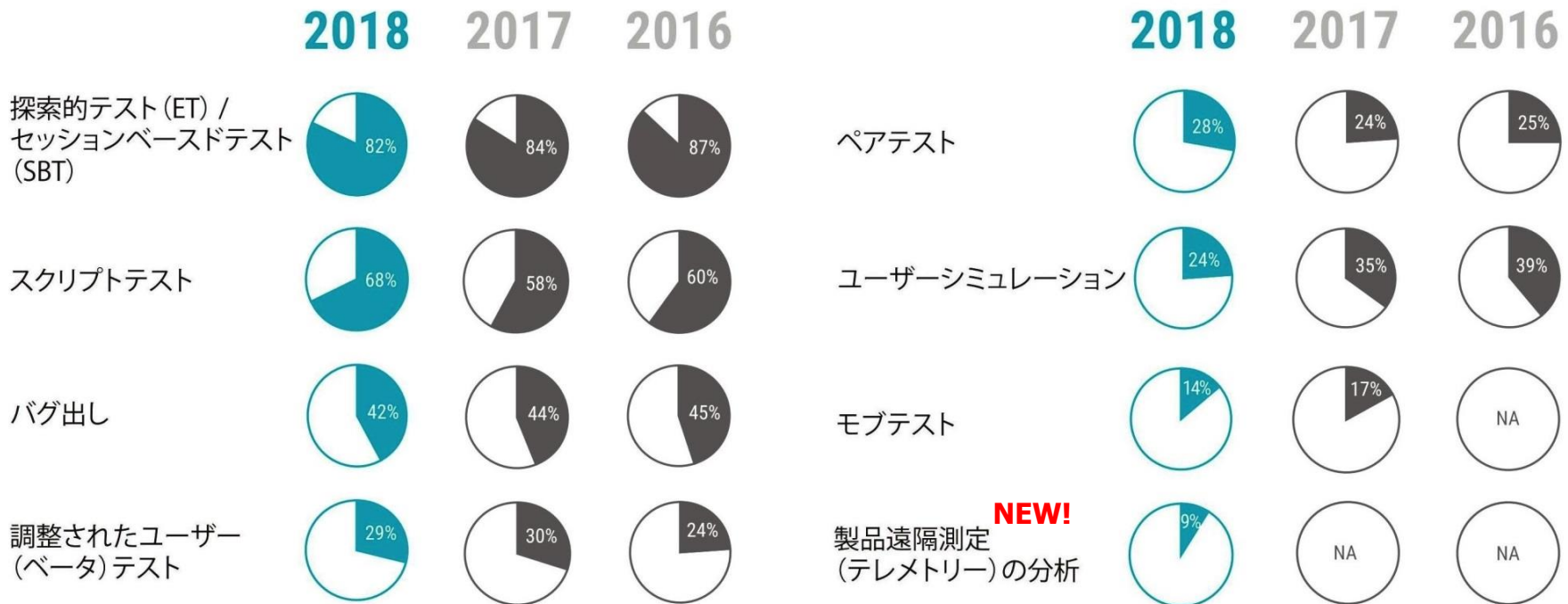
- 組織内の品質部門への報告が少なくなり、プロジェクトマネージャー、場合によっては開発マネージャーに報告するようになってきた
- 一体化チーム(Unified team)やアジャイルチームの中でのテストの役割が変化し、チーム構造が変化している現れかもしれない



テストのアプローチと方法論

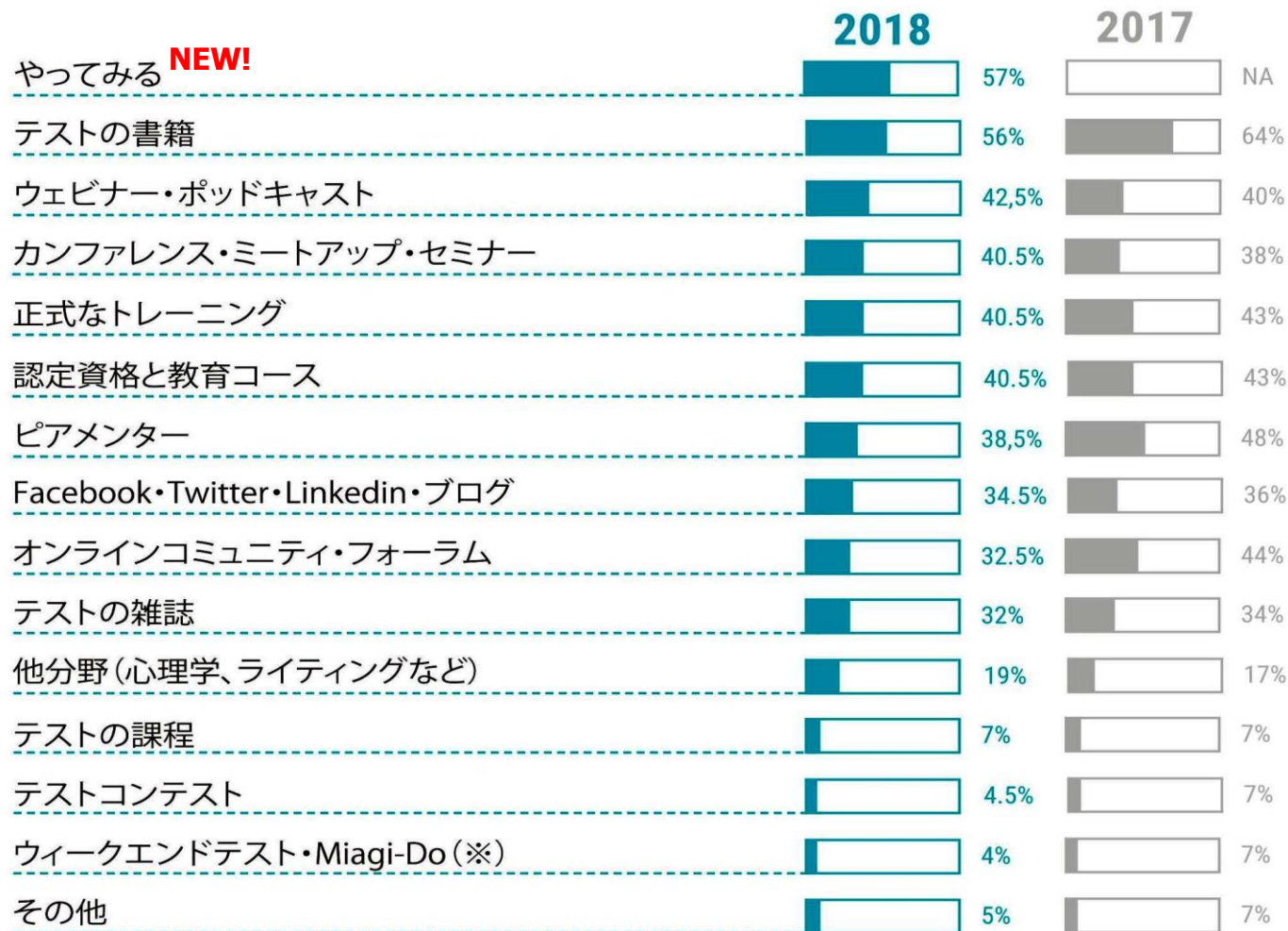
□ どのようなテスト手法が使われているか

- 毎年8割以上の回答者が探索的テストと回答
- 2018年にスクリプトテストの回答が何故か増加
- モブテストを用いているとの回答も出始めている



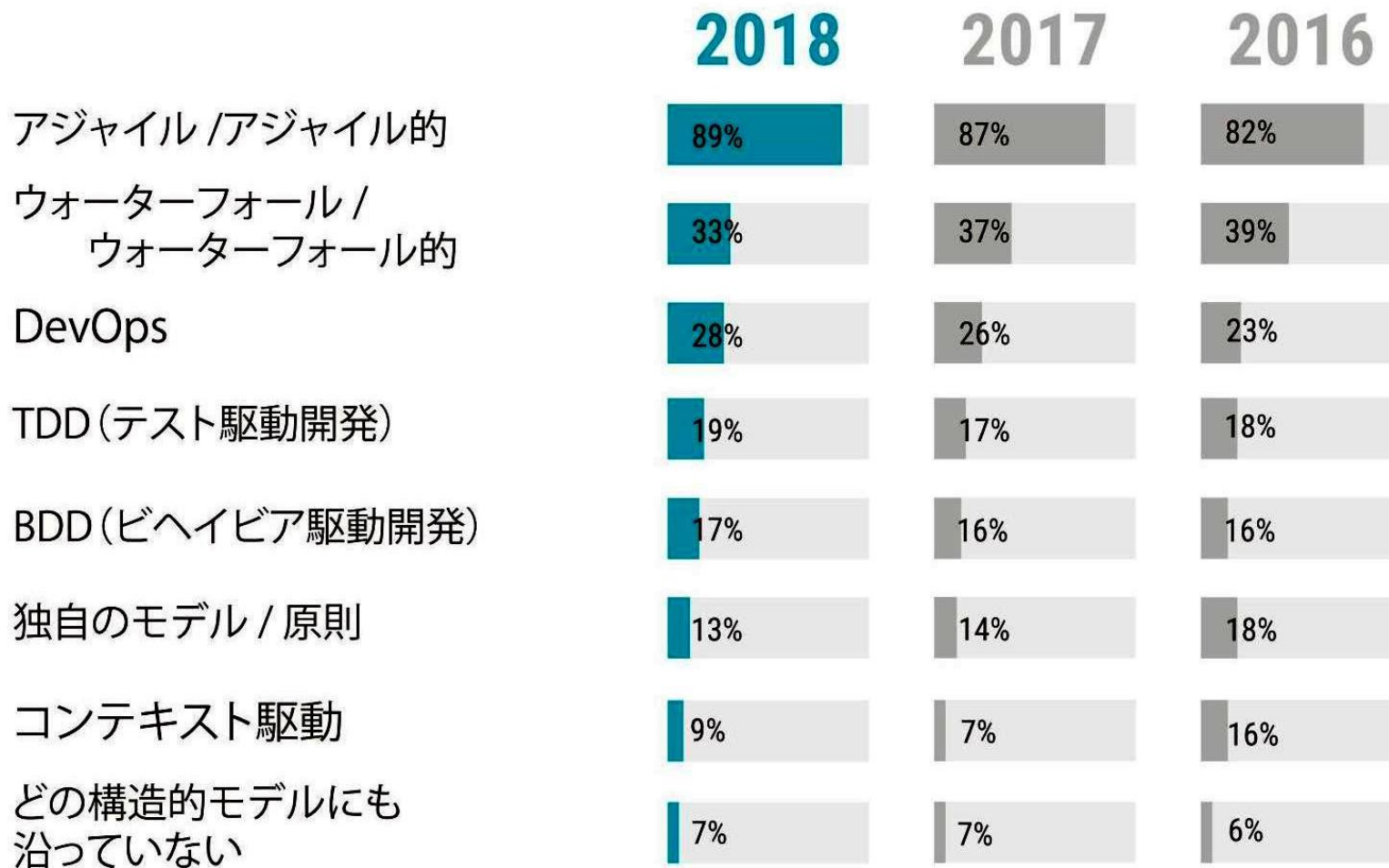
スキルを磨くための知識の情報源

□「やってみる(Just doing it)」が1位 (^^;)



開発モデル

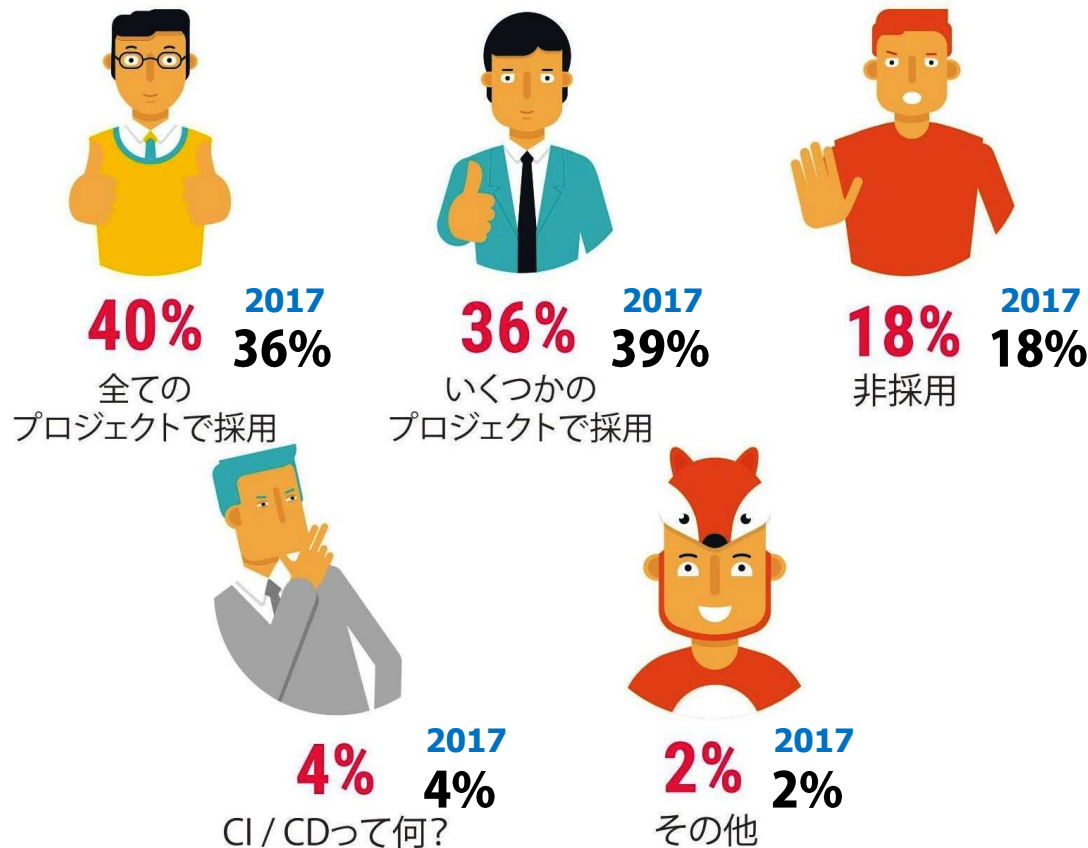
□ アジャイルが一般化、DEVOPSがじわじわと広がってきた



開発モデル

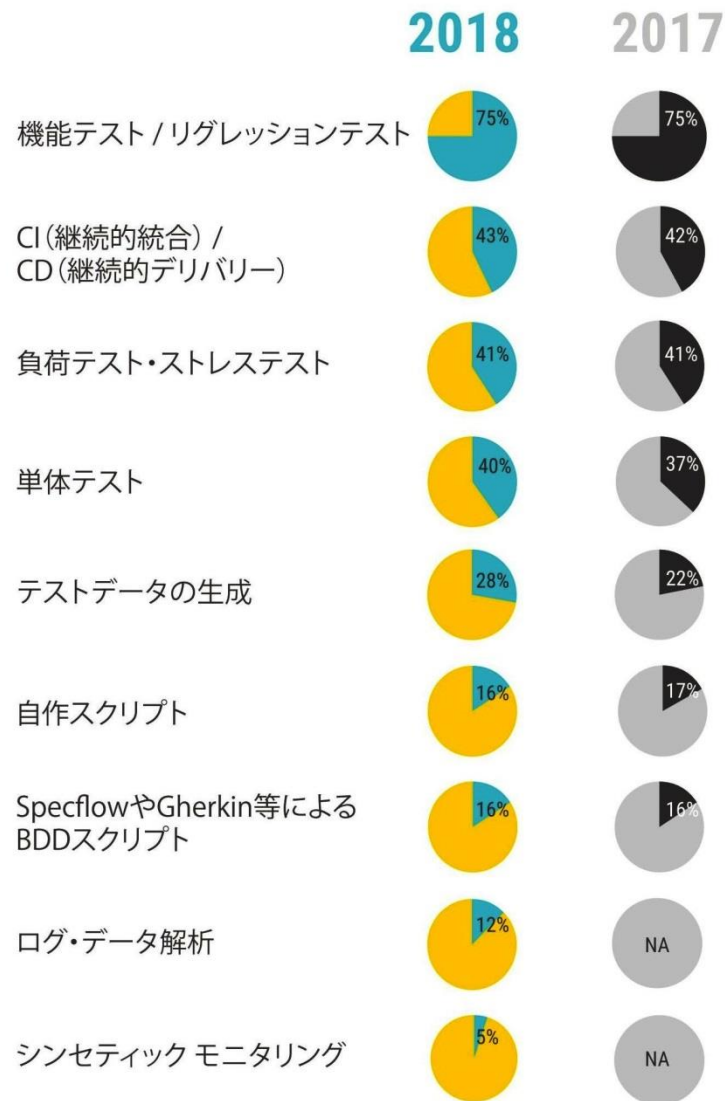
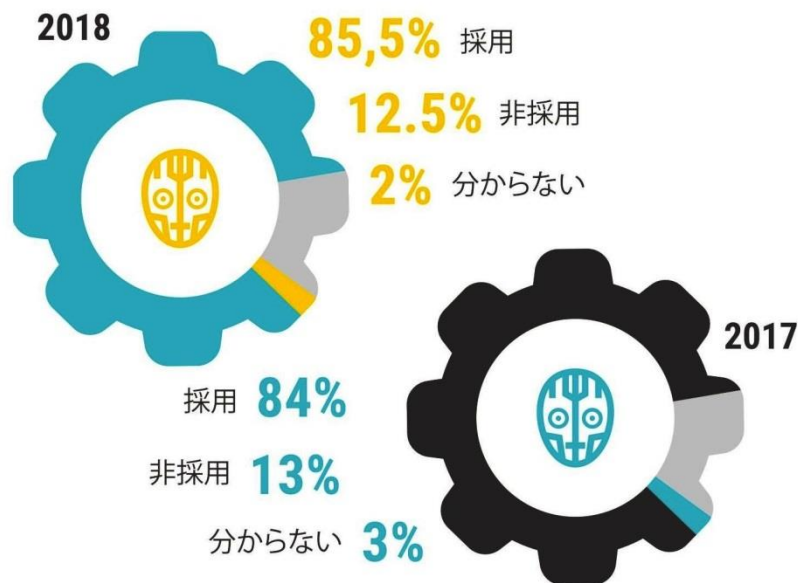
□ CI(継続的統合)/CD(継続的デリバリー)の導入状況

■ CI/CDはゆっくりと導入が進んでいる



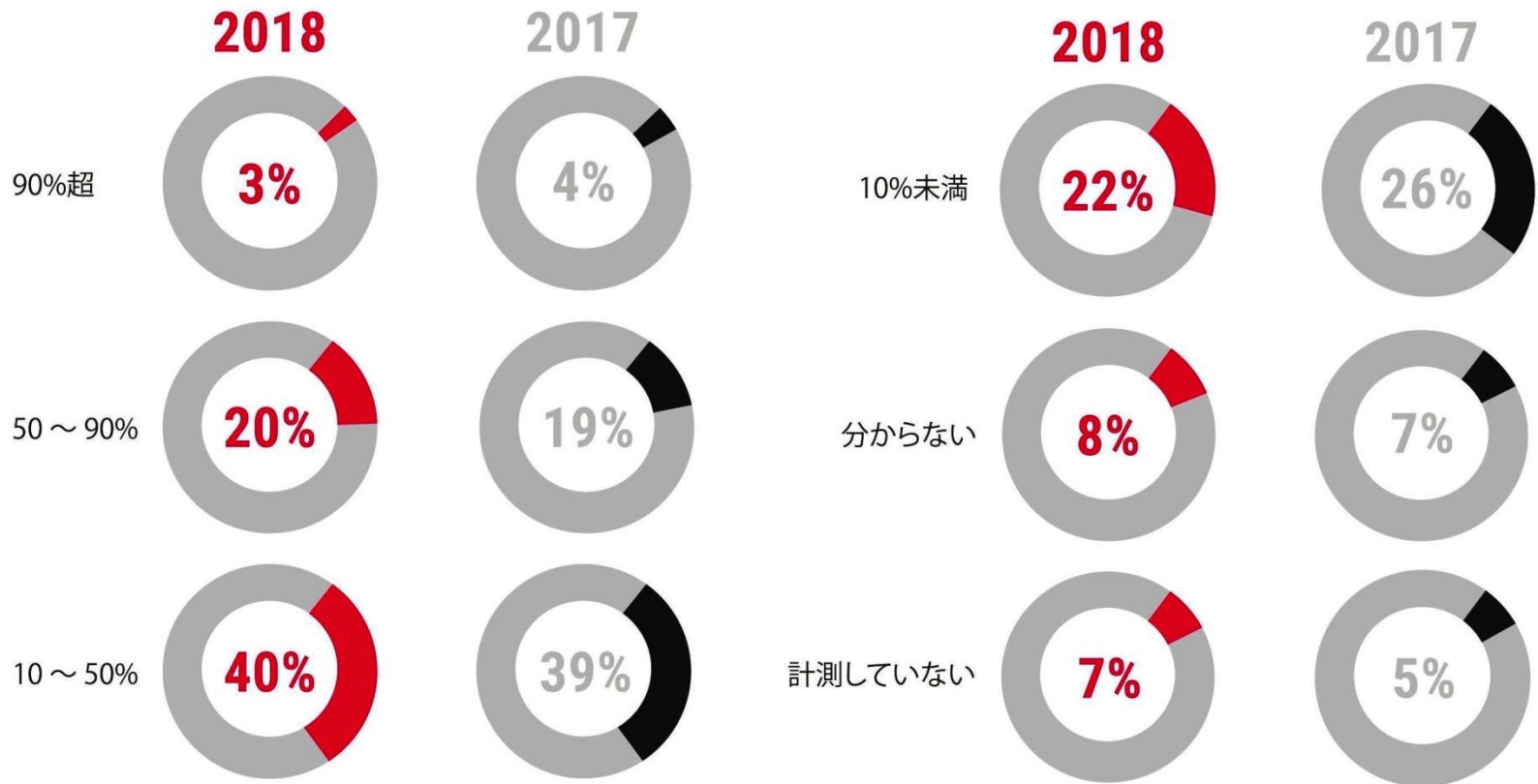
自動化の状況(1)

□ 自動化の採用状況



自動化の状況(2)

□ テストケースの自動化の程度





ご清聴ありがとうございました